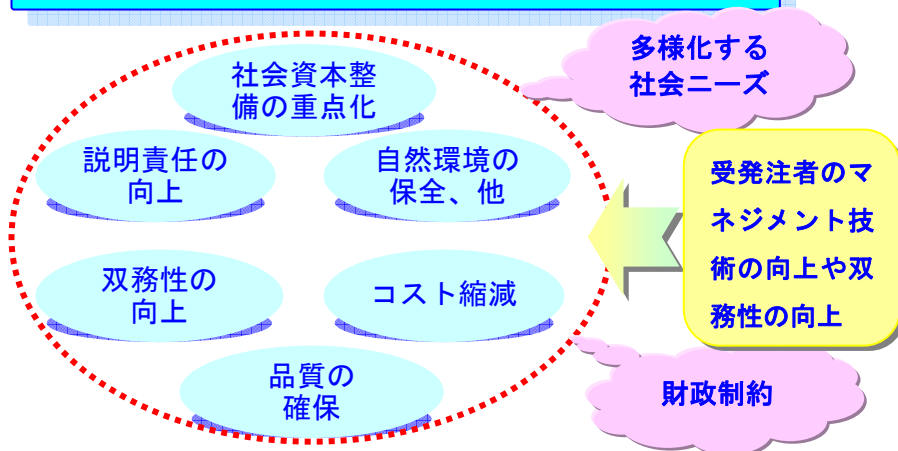


EVMSによる公共工事の出来高・工程管理

なぜ、出来高・工程管理が必要か？



公共工事では、良好な社会資本を適正な費用でタイムリーに整備することが求められている。工事の実施は、受注者の自主施工に任せられ、発注者は必要な確認・指示などを行っているが、今後は、さらに受発注者双方が出来高と工程の進捗状況を適正に把握し、情報共有することで、受発注者間の双務性の向上や工事進捗の説明性を高めることが必要である。

EVMSによる出来高・工程管理とは？

今までの出来高・工程管理

【出来高（計画・実績），工程表】

受注者から『情報発信』

- 出来高と工程を別々に管理する
- 相互の影響把握がしづらい
- 計画と実施の差異原因が判断できない
- 工事進捗率がブラックボックス化している

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
積算項目1	計画	200												
	実績	200												
積算項目2	項目2-1	計画	150	185	175									
		実績	150	185	175									
	項目2-2	計画	200	200	200									
		実績	200	200	200									
積算項目3	項目3-1	計画				200	300	400	400	200	200			
		実績				100	300	400	400	200	200	100		
	項目3-2	計画				180	180	180	180	100	100			
		実績				170	170	170	170	100	100			
			計画				170	170	170	170	100	100		
			実績				170	170	170	170	100	100		

出来高と工程を別々に管理

出来高と工程を統合管理し、相互影響まで把握

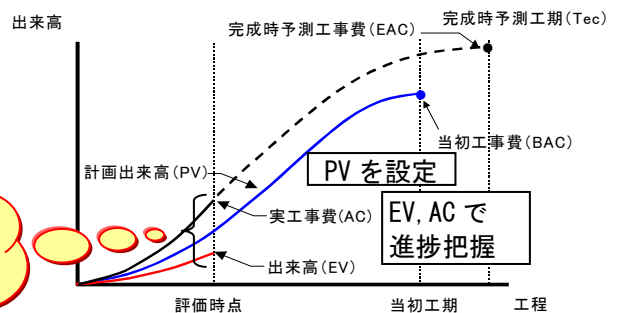
EVMSによる出来高・工程管理

【出来高（計画・実績）＋工程表（時間）】

受発注者で『情報共有』

- 工事進捗説明技法として有効
- 出来高と工程を統合して管理
- 相互の影響把握がしやすい
- 計画と実施の差異原因が説明できる
- 工事進捗情報の共有化
- 経験的簡易式による完成予測
- 工区内・事業内・組織内の統合管理(PM)

EVMSの活用



出来高・工程管理によるメリットは？

【受注者のメリット】

- ◎ 進捗状況に応じた対応策の判断支援
- ◎ 適切な工事管理による工事成績評価の向上
- ◎ 無理無駄を省いた計画的な施工の確保

【発注者のメリット】

- ◎ 進捗状況の完成時への影響把握と早期の是正検討
- ◎ 関連工事との統括監理
- ◎ 定量的データの蓄積によるナレッジマネジメントへの展開

Win

Win

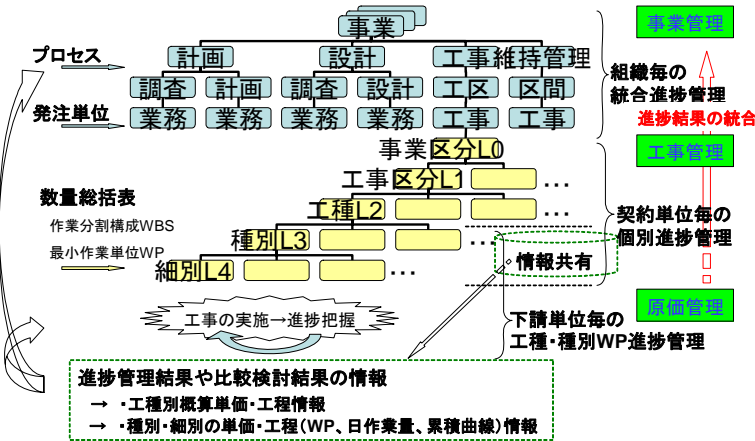
Win

国民
(納税者)

適切かつタイムリーな社会資本サービスの享受による満足度アップ

EVMSとは？ どのような場面で使うのか？

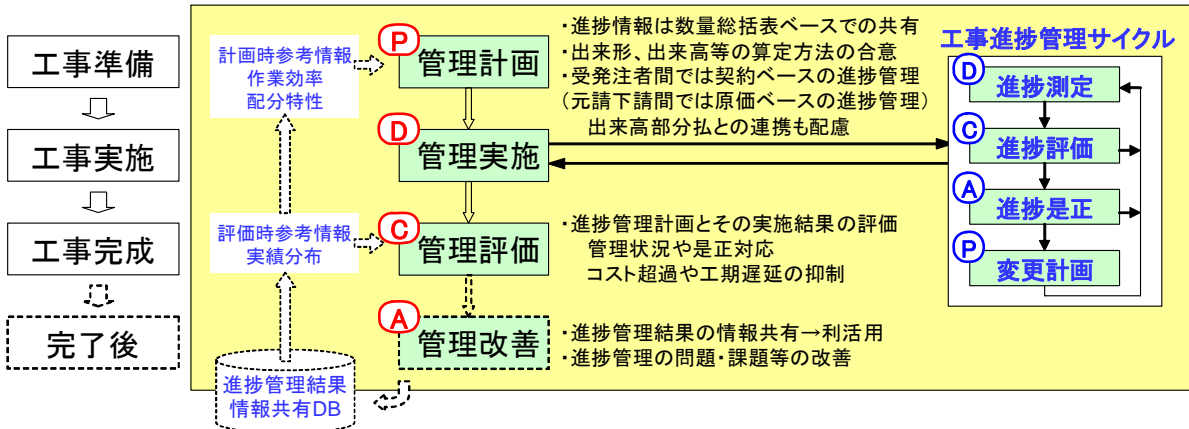
プロジェクト～工事のWBS構成と進捗管理(例)



EVMSとは、プロジェクトマネジメントにおいてプロジェクトの出来高と工程を統合管理する技法の一つであり、計画出来高と達成した出来高や実工事費を相互比較することで、早い段階から是正対策を講じる必要があるか否かの評価やその是正対策案の比較評価に役立つものである。

EVMSは、原価管理や工事監理において、工事の進捗管理や最適な工法変更を検討する作業の効率化・合理化に寄与するものと考えられ、また、事業管理などにおいて、工事進捗状況を分かりやすく説明するツールとしての活用も考えられる。

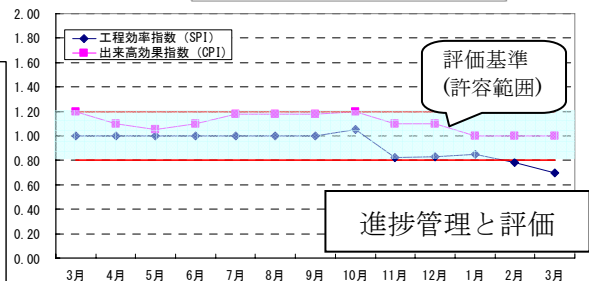
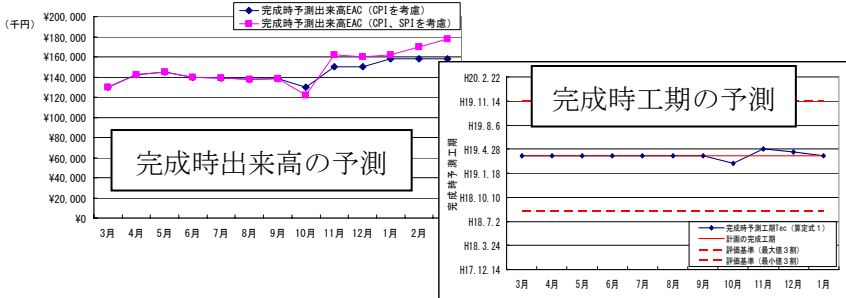
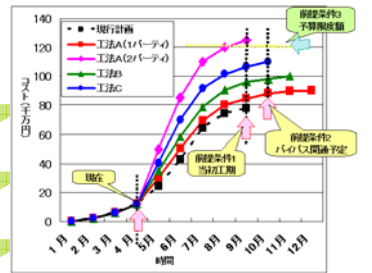
進捗管理の手順は？ ⇒PDCAサイクルを回す



どのようなことができるか？

- ① 工事進捗の統合把握と簡便な予測ができる : 出来高と工程、完成時予測
- ② 出来高部分払への活用ができる : 月単位の出来高
- ③ 出来高超過と工程遅延の統合是正評価ができる : 比較案の計画出来高評価

是正策（工法）比較



手引き（案）と今後の課題について

出来高超過や工程遅延の抑制や双務性の向上に向け、受発注者の実務者向けに EVMS を導入する際の手引き「EVMSによる出来高・工程管理の手引き（案）」を作成した。また、実施結果の蓄積とその活用システムの整備や実施状況調査による利用者へのフォローアップ（補足情報の提供）などが今後の普及・活用に向けての課題である。